

Aldridge, T., Lee, R., Leyshon, A., Thrift, N., Tooke, J., Williams, C. (1999) "LETS: A Working Alternative", <http://www.geog.qmw.ac.uk/lets/Working.htm>

抄訳 泉留維 (2000年2月)

現代の資本主義に関連して生じた社会・経済・環境のそれぞれの問題を解決することができる潜在的な手法として LETS は機能するのであろうか。このペーパーでは、LETS が、主流の労働の形態に対してオルタナティブなものを提供するのか、そして主流の仕事を得るためのオルタナティブな経路となりうるのかを分析する。

### What are LETS?

LETS は、地域限定の通貨を使用し、地域内で財・サービスの取引を行う人々のネットワークと見なすことができると思われる。また、LETS は、コミュニティ内でのスキルの互恵的な交換を促進する手段としても見なすことができるだろう。

マイケル・リントン (Michael Linton) によって、最初の LETS が、産業の再構築の結果として地域コミュニティで大量の失業者が発生したカナダで誕生した。彼が提唱した LETS は、地域経済において貨幣が不足していても、地域の経済活動が滞らないための手段としてみなされている。LETS は、1985 年の "The other economic summit" でのリントンのスピーチ後にイギリスに紹介された。

< ESRC レポート参照 >

イギリスでは、取引に使用される地域通貨にはその地域に関係した名前が付けられている。

提供されるスキルに関して、すべて個々人の使用時間によって等しく価値付けされるタイムダラーアプローチと、スキルの価値は、相対で交渉し決定される UKLETS アプローチの主に 2 つのものがある。LETS には、仕事・労働を再評価する側面があり、また新しいスキルの開発や再教育、地域通貨で最初の設立費用を支払うことによって小規模ビジネスを開始する機会の提供などの機能も見られる。(システム内部でのビジネスの実験的導入 少ないコストで消費者の動向を調べる。)

### The Project

#### Changing nature of work

- a) 短期雇用、パートタイム雇用、自営業の増加に伴い雇用の不安定さが増している。
- b) 豊かな人と貧しい人の分極化が起こり、階層や性別による賃金の不平等もなお続いている。

LETS は、仕事の形態の変化による必然的な一時的問題というよりも、もっと長期的な問題のため出現したと思われる。LETS は、コミュニティワーク、すなわちローカルもしくはコミュニティに基盤を置いて、互恵的な取引の機会の提供を行うようなものである。そして Williams [1996] によれば、LETS での交換は、国家・市場によって統制されてい

るわけではなく、LETS によって感化された人々によって管理されている点が重要と思われる。(生産、連鎖的交換・バーター、消費という地域での一連のシステムを作り上げる。そしてそれを作り上げる「地域通貨」を通して行われる。)

このような LETS は、公的部門と私的部門をつなぎ合わせる可能性があり、家計とビジネスの構築を分けて考える二分法を崩壊させ、コミュニティの構築という新しい要素を生み出すかもしれない。

### Researching – LETS Work

Williams〔1996〕の”Calderdale LETS”の調査では、高い割合で失業中のメンバーがいたが、それらのメンバーは、就業者のメンバーよりも平均取引高が低かった。その理由の1つとして、失業者は、LETS 内で仕事を行うスキルを持ち合わせていないことを挙げている。また Lee〔1996〕では、LETS 内での支払いレートは、地域的そして個人的に構築された社会関係に基づいて交渉されていると指摘している。そのため LETS は、資本主義的活動ではないとしているが、システム内で強化された社会関係が結果として取引に影響を及ぼしている。このような不平等は、性別によっても生じていると書かれている。そして表面的には、LETS はスキルの再評価の機会を提供しているが、現実には階級や性別の相違が取引に影響を及ぼしている。

(アナーキスト的価値を持つ人は、時間ベースの通貨を使用し、権力構造からの脱却を計っている。一方で主流のメンバーは、ポンドとリンクした地域通貨を用いている。)

North〔1999〕によれば、LETS には、様々な動機で人々は参加しており、LETS の利用の仕方も多種多様であると述べているが、そのうちでも主に以下の3点に各 LETS の戦略をまとめることができるだろう。

- 主流の仕事に対するオルタナティブなものとして
- 雇用の不安定さという問題を解決するものとして
- 利他的なもの - コミュニティの構築と他者への支援

しかしながら の戦略は、North によればアナーキスト的価値を持つ人々が望んだ戦略であり、結局 LETS からは排除されつつあるとしている。

### Membership Profile

今回の調査 (ESRC レポート参照) では今のところ 364 人の LETS メンバーから返答が来ているが、その結果は以下の通りである。 <白人 (95%)、女性 (68%)、30~60 歳の人々、高学歴 (64% が学士もしくはそれ以上の資格を持っていて、そしてその中の 4 分の 1 は大学院を出ていた。1 年間に 1 万 4300 ポンド以上の家計所得がある。(51.4%) 雇用状態に関しては、従業員のいない自営業者 (28%)、フルタイムの従業員 (19%)、退職者 (15%)、パートタイムの従業員 (15%)、失業者 (7%)、主婦 (6%) であった。 >

## LETS Activity

LETS は、メンバーの大部分が女性であり、また女性のメンバーの方が男性のメンバーよりも活発に活動している。1998 年の女性による供給面から見た取引数は、平均 13 回であったが、男性は 11 回であった。しかしながら Lee〔1996〕や Williams〔1996〕によれば、性の違いによる不平等な支払いレートが存在しており、女性は 1 時間当たり平均 3.75 ユニットのレートであるが、一方で男性は 4.68 ユニットもあり、1 時間当たり約 1 ユニットの差がある。この結果を見ると、取引される財・サービスの種類に関して、性別の市場が存在していることを反映しているように思われる。男性によって提供されるものとしては家の修理などがあり、女性によるものとしては家庭内の仕事、ペットの世話などが挙げられる。このような家庭内サービスとオルタナティブなサービスの分類は、構造的な問題であり、LETS は既存の資本主義市場と密接に関係していると思われる。

資格・学位のレベルと 1 時間当たりの平均受け取りユニット数には、正の相関関係が見られる。現在スキルの価値付けに関しては、基本的に相対で決定するシステムであるが、交渉力や社会的関係によって価値付けに微妙に歪んだ影響を与える可能性がある。要するに 1 時間当たりの平均支払いレートは、主流の労働市場での階層や性別を反映したものとなっている。そういう意味では、LETS は、労働の分類に関係した不平等な報酬に対して立ち向かっていないと言える。それゆえメンバーの大部分にとっては、LETS は、オルタナティブな仕事の形態ではないといえる。しかしながら、LETS は、仕事をもたらすオルタナティブなルートと見なすことはできるかもしれない。現在利用できる財・サービスは、非常に限られており、特に公的財の利用に関しては、誰もが主流の経済システムから逃れることはできない。

## Unemployed

失業中の LETS のメンバーの多くは、LETS は新たな雇用のルートとはみなしていない。メンバーのわずか 11% が、LETS は、将来雇用されるための訓練の場と考えていた。また失業中のメンバーの 24% が、LETS は、新しいスキルを開発するのを助けてくれると考えていた。残念ながら上記 2 つの項目に関しては、LETS 関係者が主張しているほどの役割は果たしていないようである。しかしながら失業中のメンバーの 68% は、生活水準の改善に貢献したと述べている。また 70% は、LETS が、金利が付かないクレジットを発行していることに賛同している。LETS は必ずしも新たな仕事の発見・開拓ルートにはなっていないようであるが、フォーマルな仕事についていない人々を支援することは機能しているように思われる。

労働の分極化によって、多大な影響を受けたもう 1 つのグループは、自営業のメンバーである。

（労働の自由化を議論する上で、自営業は重要な要素となってきている。イギリスでは、1980 年の 170 万人から、1997 年には 330 万人に急速に不安定な労働市場にいる人々が増

加している。)

### Self employed in LETS

先ほども書いたが、従業員がいない自営業の LETS メンバーは、LETS メンバーの中でも最もメンバー数の比率が高いグループであるが、一方で従業員がいる自営業者のメンバーは、全体の 3% 以下であった。ここでは、従業員がいない自営業の LETS メンバーに注目して議論を進めていく。

このグループの特徴は、一般的な LETS メンバーの特徴と非常に似ている。女性のメンバーは若干少ないが (68% 61%)、40~49 歳のメンバーが多く (30% 43%)、教育レベルは非常に高く (学士号は 62% が持っている)、またほとんどの家計において (71.6% 76%) 少なくとも 1 年間の総所得が 9100 ポンドであった。

自営業者のメンバーは、非常に活発に取引を行っており、1 年間に平均 29 回もの取引をしていて、一方で失業者のメンバーは平均 15 回、パートタイムの従業員は 9 回、フルタイムの従業員は 5 回であった。また自営業者のメンバーは、単位時間当たりのリターンが最も高いと思われる。自営業のメンバーは平均 5.76 ユニットであるが、失業者は 2.36、退職者は 3.78、パートタイムの従業員は 3.86、フルタイムの従業員は 2.69 であった。

取引回数と 1 時間当たりの平均ユニットの相違によって、LETS は、自営業者の対してより中心的なそして重要な役割を果たしていると言える。それにもかかわらず、失業中のメンバーと同様に LETS は、新たな仕事のルートとは考えておらず、従業員がいない自営業の LETS メンバーの 18% のみが、LETS は自営業を行うのを助けてくれると考えていた。また 22% が、LETS は顧客を得るために利用していて、実際に従業員がいない自営業の LETS メンバーの 49%、従業員がいるメンバーの 71% が、より多くの顧客を得ることができたと述べている。要するに、自営業者の人々にとって、LETS に参加することは、顧客を得るための 1 つの戦略である。しかしながら同時に彼らの一部には、利他的な動機をもって参加している人もいる。

LETS の通貨で価値付けられる財・サービスの比率、すなわち各取引において LETS 通貨とポンドの比率は、自営業者のメンバーにとって大きな問題である。実際、従業員がいない自営業の LETS メンバーは、財・サービスを売る際に最もポンドの比率が高いグループであった。また主婦、失業者、フルタイムの従業員、退職者のメンバーが、取引する際にポンドでの一部支払いを求めることは少なかったが、パートタイムの従業員の場合は、ポンドでの一部支払いを求めることが多かった。これは、また自営業者のメンバーにとっての LETS における取引の重要性を示していると言えよう。LETS での活動をビジネスの一部としてとらえていると思われる。それゆえ自営業のメンバーにとって、LETS での取引は、主流の経済と密接に関係していると言える。

### Activity

自営業者のメンバーの中でさえ、性別による不平等は存在し、男性は 1 時間当たりの平

均支払いレートは 7.69 ユニットであるが、女性は 5.20 ユニットであり、1 時間当たり 1 ユニット以上の差がある。(全メンバーのケースよりも差が大きい。)同様に教育水準・学歴によっても差が見られる。特に健康関係や個人サービスを提供する人々が、より高いレートを請求し、そしてこのようなサービスを提供するのは、特に自営業者であり、彼らが比較的高い教育を受けているためだと思われる。スキルの価値付けの違いは決して固定的なものではないが、一般的に存在している。さらに自営業者のメンバーによって売られる財・サービスは、性別によって違いがある。家庭内サービス、教育、アートなどは女性によって提供され、家の修理や輸送・運搬は男性によって提供されている。しかしながら子供の世話は、主に男性が提供するサービスに分類されている。

### **Conclusion: non capitalist activity and the potential for the transformation of work**

LETS は、労働の分極化への対応というよりも、社会的不平等を反映したものであり、もしかするとそれを強化するものであるかもしれない。メンバーが、フォーマルエコノミーからきた非対称的な立場から、LETS で取引を行っている限り、既存の不平等は再生産され、より拡大するという結果をもたらす可能性がある。そして LETS において、タイムベースで価値付けが行われたとしても、なお不安定な労働の存在を取り除くことはできない。LETS は、主流の経済から切り離して運営することはできず、主流の経済の価値が取引に反映される傾向が見られる。